

6. 密播苗を用いた水稻の省力・低コスト栽培技術の確立(H30~32)

背景・目的

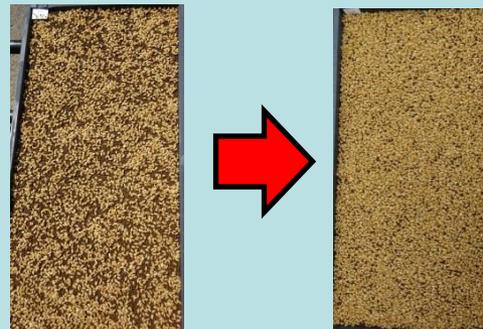
水稻栽培の現状

- ・農業法人等による大規模化
- ・水稻生産者の高齢化による育苗・移植作業の委託の増加



育苗施設の増設や労力の増大

密播育苗技術



通常150g程度の播種を 300gに

- 育苗箱数50%OFF
- 育苗資材50%OFF
- 育苗期間7~10日短縮
- 移植時の苗継ぎも減る(移植時間短縮)

研究内容

高密度播種・育苗技術の確立

苗の条件

草丈(10cm以上)

根マット強度
(手で持てるくらい)

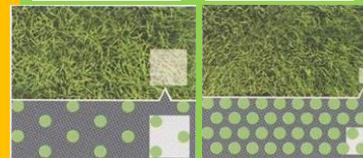


育苗条件(遮光等)の設定

密播苗移植技術の確立 (田植機の種類・栽植密度)

慣行苗

密播苗



既存の田植機でも
移植可能な播種量は？

試験内容		H30	H31	H32
高密度播種・育苗技術の確立	品種間差の把握	→	→	
	育苗期間の検討	→	→	
	管理技術の確立		→	→
密播苗移植技術の確立	田植機の違いの検討	→	→	
	栽植密度の検討		→	→
現地実証			→	→

期待される効果

- ・播種～移植期の省力・低コスト化
- ・負担軽減による農地集積・大規模化の推進